

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800117		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム 静内さくら館2		
所在地	日高郡新ひだか町 静内駒場5番40号		
自己評価作成日	平成 27年9月3日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193800117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0193800117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年9月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を望む立地に建てられており、太陽が海に沈む景色がとても綺麗で、鮮やかな夕焼けが水平線に染み込むように暮れて行きます。  
 ホームの裏は災害(津波時)の避難場所(高台)に整備され、地域との連携した防災体制が構築され、自治会の方が参加しての避難訓練を行なっています。  
 暖かい時期は花壇やプランターに花を植え、水やりや手入れに勤しみ、ビニールハウスでぶどうや野菜を育てて、収穫を楽しんでいます。  
 地域の皆様の協力により、安心して住み良い生活の場となり、入居者様一人ひとりが笑顔で、思うように暮らしているように感じます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員にも考えてもらい、理念作成にあたり、提案や意見を出してもらい決めました。決まった理念を掲示、共有し実践に活かしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に参加を呼びかけ、地元の方との交流に努めています。管理者や職員が自治会の清掃活動に参加し、交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの職員が救命講習を申し込む際に自治会の方にも参加していただけるよう案内を出し希望があれば一緒に受講できるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政、自治会、ご家族、社協、ホーム職員が参加し、生活状況の報告や話し合いを行っています。質問や意見、要望など検討しサービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みや事務所の実情では、困難な事例を相談してアドバイスを頂くことがあります。お部屋が空いた際には、緊急に対応が必要なケースなどを確認し、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止委員を決め、会議に参加し、各ホームで会議内容や活動報告を行い、全職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束・虐待防止委員会を置き、ミーティングで話し合いの機会を作り、理解と防止に努めています。職員がストレスを抱え思い悩む状況で仕事をすることがない様、注意を払っています。定期的に社内研修を実施し、意識を高めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見人制度について、全職員に学ぶ機会(ミーティング)を作っており、必要な方については活用できる様、説明し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、疑問点については全て説明し本人、家族の要望も尋ね出来ること・出来ないことを明確にし、納得して頂いています。解約する際にも十分な説明を行い、解約後も「協力できることが有るなら相談してください」と伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には意見や要望を伺っています。ホームの玄関に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を表せる様、配慮しております。契約時に苦情窓口連絡先を記載した書面を説明の上渡しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、全職員で話し合いを持っています。意見・提案書を準備し、職員の意見をくみ上げて検討し、反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員個々の努力や実績に対して評価をし、職員待遇や給与待遇の見直しを行っています。勤務状況の大変さを理解し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの中で、プチ研修を実施、別ユニットでの職員の対応や取り組みを参考に自らを振り返ってもらったり、会社が行う研修に全職員参加してもらい育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームでネットワーク作りや勉強会の機会を地域の同業者に向けて準備できませんでしたが、地域の同業者が開催する勉強会へ管理者や職員が参加しています。同業者との交流する機会を持ち質の向上に取り組めるよう、努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、情報収集と共にご本人の不安な点や要望などを聞き取りし、全職員が情報を共有。慣れない場所での生活に配慮した対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の思いや要望等、早い段階で聞き取り対応可能なことであれば対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けるほとんどが日中家族が皆働いている為、介護する人が居ない「火の始末が心配、独りで外へ出てしまうと家へ戻れない」等の状況になり、他のサービス利用での対応が考えにくいケースが多いため、入居相談になっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理を一緒に行ったり、盛り付けを任せたり、米とぎ、食器洗いや食器拭き等、役わりが出来上がっており、毎日強力し合って生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に生活状況や体調面での相談や報告を日常的に行い、共に支えていく立場である事を感じて頂いていると思います。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた床屋など、継続して通えるよう支援しています。友人宅や親類宅への訪問希望があり、支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係が良好に過ごせるよう、職員は常に中立な立場を保ち仲介し、耳が遠くて会話に参加できない方が孤立することなく過ごせるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、「お役に立てることがあれば、いつでも相談してください」と伝えていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	応じられる範囲で一人ひとりの思いや暮らし方の希望を尊重しています。朝が苦手な遅れて起きられる方に対して朝食時間を遅らせるなど対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を収集し、把握に努めています。入居後も会話の中から職員は情報収集し共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や日常の係わりから、現状を把握し、変化に気づき対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うカンファレンスで職員の気づきや意見、提案など全職員で話し合いを持っています。各入居者さんに担当職員を決めており、モニタリング表やアセスメント表を使いプランの実施状況や評価、課題を検討し、介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応可能な要望に対しては既存のサービスに捉われない、その都度柔軟に対応しています。(買い物や外出、活動等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時は安全に配慮し、町で主催する芸術祭を見学したり二十軒道路へ桜見物に出かけたり、暮らしの中に楽しみを取り入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、ご本人や家族の意向を尊重し、入居後も希望する病院を継続し受診でき、適切な医療が受けられる支援をしています。受診が難しい入居者さんが往診で診てもらえる体制もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師不在ですが、職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づき、かかりつけ医に相談や受診し、適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ必要な情報提供を行い、入院中は病院関係者との情報交換や状態を確認し、ホームが受け入れ可能な状態などを伝え、早期に退院ができるよう、相談を重ね関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応指針について説明し、ご本人やご家族の意向を確認し同意書を頂いています。入居中に重度化しつつある段階で、かかりつけ医・ご家族と話し合いを行い、ホームで出来ることを十分に説明し方針を共有、再度ご家族の意向を確認し支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、すべての職員が毎年普通救命講習を受け応急手当や初期対応の訓練をし、実践力を身につけています。急変時の対応マニュアルを掲示し慌てず対応できるよう備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は毎年、避難訓練を実施し災害時に備えています。地域自治会と日頃から協力し避難訓練を行っており、避難道路の整備(草取り)も共同で行い協力体制を築いています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声掛けを心掛けています。特にトイレ誘導時の声掛けや排泄の失敗は他の方に気づかれないよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を伝えやすいよう、ご本人の話しを否定せず傾聴しています。自己決定できるよう、ご本人に何事も確認した上で支援するよう配慮しています。希望など伝えられない方には選択肢を絞り選んで頂くなど心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から職員の都合や用務を優先せず、入居者さんのペースを大切に、要望を取り入れた過ごし方を心がけて支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に洋服を選んでいただく場面を作ったり、髭の剃り残しを手伝うなど、身だしなみを支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みは職員間で把握しており、提供方法や調理方法を工夫しています。食事の準備や片付けなど、役割として意欲的に参加してくれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録して、摂取不足時は好む食物・飲み物を薦めたり、時間を空け再度声掛けする等工夫をしています。職員間で確認や申し送りを徹底しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアできる方には声を掛け促しています。介助が必要な方には、誘導し介助で口腔ケアを行い清潔保持できるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導があればトイレでの排泄が可能な方、介助があればトイレでの排泄が可能な方、一人ひとりの必要な支援を把握し、誘導や促し、介助を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く使いバランスを考え調理し、牛乳、ヨーグルト、野菜ジュースの摂取など水分摂取の誘導を行ったり適度な運動への誘導を行って、便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は午前中に入浴していただいています。体調を確認した上で、個々の希望に合わせた順番や介助者で入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に合わせて休息できる様、配慮しています。夜間眠れない方には、日中の活動量を増やすなど工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが服用している薬の説明書で目的や副作用・用法が確認でき、薬剤師の管理指導の基、飲み合わせにも安全な体制がとられています。副作用など症状の変化が見られた場合には、主治医へ相談し指示を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割や力の発揮が出来る場面作りに努めています。食器洗いや食器拭き、米とぎ、テーブル拭き、タオルたたみ等を役割として行ってくれる方や、買い物やオセロを楽しまれる方もおります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で買い物に行くこともありますが、春には桜を見に出かけたり、町の芸術祭を見学したり外出を支援しています。親戚宅や知人宅へ行きたいと希望される方には職員が同行し支援しました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ホームで預からせていただいています。買い物時に渡してご自身でお金を払って頂いておりますが、職員が見守りしており、傍で対応できるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話を掛ける方もおります。耳が遠い方には仲介する等、支援しています。手紙のやり取りもされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに共用の玄関、居間、食堂、廊下、居室の明るさや湿度など居心地良く過ごせるよう配慮しています。日差しが強く暑い日には、ブラインドや窓の開閉で調整しています。テレビやCDの音量は適度な大きさを心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士でゲームをしたり、食堂で歌を唄う場面が見られたり、リビングのソファで一人ゆっくり横になり過ごされる方もおり、思い思いに過ごせる場所になっていると感じます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し、使い慣れた物や愛着のあるものを居室に置くなど、本人の居心地のよい空間になるよう配慮しています。家族にも相談しながらベッドの向きや高さ調整、布団への変更等、過ごしやすく工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわからなくなる方もおり、居室の戸に名前をつけさせて頂いています。居室内には、「トイレ」「便所」の表示で、その方に合わせて場所が分かるよう工夫しています。本人の意向に合わせて居室内のタンスには「ズボン、下着」などの表示をつけ混乱を防いでいます。		